

英語民間試験におけるスピーキングテスト問題形式 と評価方法の分析

著者	村岡 有香
雑誌名	聖学院大学総合研究所Newsletter
巻	Vol.29
号	No.1
ページ	13-20
発行年	2019-10-31
URL	http://doi.org/10.15052/00003733

英語民間試験におけるスピーキングテスト 問題形式と評価方法の分析

村岡 有香

1. はじめに

2020年度より、高大接続改革の一環として現在実施されているセンター試験に代わり「大学入学共通テスト（以下「共通テスト」）」が新たに導入される。英語試験については大きく変更され、受験者は、リスニングとリーディングの2技能を測る共通テストの英語試験と4技能を測る外部英語試験のどちらか、または両方を受験しなければならない。さらに、文部科学省（以下「文科省」）による英語資格・検定試験についての文書によると、2023年度までに、共通テストの英語試験は廃止される予定であり、2024年以降は認定英語試験のみの受験となる。今回の入試改革の大きな特徴は、これまで各大学の個別試験やセンター試験で実施されてこなかった英語スピーキングテストが導入されることだ（南風原 2018）。スピーキングテストを大学入学選抜における評価の対象とすることで、文法やリーディングなどインプット活動中心から、ライティング・スピーキングなどアウトプット活動を含めた4技能統合型の英語授業に変わることが期待されている。この改革により、4技能統合型の指導の必要性を謳う新学習指導要領との親和性がさらに保たれることにつながるだろう。

今回、文科省によって認定された英語民間試験は、ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定（以下「英検」）、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBTの7種類である（TOEICは4技能を1回の試験で測るテスト形式にできないという理由で取り下げとなった）。これらの試験の問題形式や評価方法は多様であるが、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を軸に段階的成績表示をすることで、標準化が可能であるとされている。どの英語民間試験を受験するかを決める際には、具体的な試験内容の理解がまずは大切である。特に、スピーキングテストについては、英検以外ほとんど

受験・指導経験がないであろう筆者を含む英語教師、また英語教師を目指す学生にとって、問題内容、出題形式、また評価方法の理解は必須である。このような視点から、本稿では、各英語民間試験のスピーキングテストに焦点を当て、その問題形式と評価方法を分析する。次に、スピーキングテストに備えて、英語教師が日頃の授業においてどのような指導をすべきか検討する。

2. 英語民間試験スピーキングテストの概略

2.1. ケンブリッジ英語検定

イギリスの名門ケンブリッジ大学の一部機関であるケンブリッジ大学英語検定機構（Cambridge English Language Assessment）によって開発・実施されている試験がケンブリッジ英語検定である。現在、世界130カ国以上、500万人以上が受験する、高い国際通用性を持つ試験である（基礎学力総合研究所、2016）。ケンブリッジ英語検定HP資料によると、ケンブリッジ英語検定とCEFRは深い繋がりがあり、何十年にもわたりCEFRの開発と発展に貢献し続けており、CEFRの6つのレベル全てに対応する唯一の英語テストである。そのため、CEFRレベルとの整合性が高い試験だと言える。ケンブリッジ英語検定は、CEFRレベルに応じて5種類（A2 Key (KET)、B1 Preliminary (PET)、B2 First (FCE)、C1 Advanced (CAE)、C2 Proficiency (CPE)）があるが、大学入試として採用される可能性が高いのはPETと仮定されるため、本節ではPETのスピーキングテストの概要を詳説する。

基礎学力総合研究所（2016）によると、PETテスト全体の所要時間は2時間18分で、そのうちSpeakingテストは約10～12分である。Reading & Writing および Listeningはペーパー版とコンピュー

ター版の2種類あるが、Speakingは受験者2名がペアで受ける対面式テストのみである。ペア形式を採用することによって、英語での発話能力だけでなく、受験者同士でやりとりする能力も評価の対象としている。受験者2名での試験形式を採用しているのは、文科省によって認定された6つの試験の中でケンブリッジ英語検定のみある。Speakingテストの内容は、「受験者間の対話」以外に「モノログ」、「面接官との対話」から成っている。

Speakingテストは具体的には4つのパートに分かれている。Part 1は試験官からの質問への応答である。基礎学力総合研究所(2016)に収録されている模擬テストにおける具体例では、“What’s your name?”, “What’s your surname?”, “How do you spell it?”, “Where do you come from?”, “Do you study English at school?”, “What subject do you like best at school?”, “What did you do in the summer holidays?”, “Tell us about your friends” など基本的な内容である。Part 2はある状況について、もう一人の受験者と会話する課題である。まず、試験官から特定の状況の説明がある(例“A young woman is going to visit the beach for the weekend, but she can’t swim.”)。次に、ペアで何について話すか指示される(例“Talk together about the different things she could do at the beach. Say which would be most fun for her.”)。対話する際、アイデアの参考となる絵カード(ビーチで行う様々な活動が描かれた絵カードなど)が渡され、そのカードを参考にしながらペアで会話を行う。何について話し、どのような合意に至らなければならないか事前に決められており、会話のゴールがはっきりしているため、比較的取り組みやすい課題と言える。Part 2では、相手の意見への同意や不同意の表明、相手への理解確認をするなど様々なコミュニケーション・ストラテジーを駆使する必要がある。Part 3は写真の状況説明課題である。ペアワークではなく、個々に行う。試験官の次のような指示の後(例“Now, I’d like each of you to talk on your own about something)、絵の中の状況(人物について、何を持っているか、何をしているか、周りの状況、天候など)を現在形や現在進行形を

使いながら詳細に説明する。Part 4はPart 3で描写した写真の内容を基に話を広げ、受験者同士で意見を交わす課題である。試験官の指示(例“Now I’d like you to talk together about what you do when you are alone or when you have free time”)に続けて、会話を始める。Part 2と同じく、聞き取りやすい発音ではっきりと話す、同意や相づち表現を用いるなど、相手との効果的なやりとりを維持しながら話を展開することが大切である。PETのスピーキングは、総合的なタスクの達成度に加えて、「文法と語彙(Grammar and Vocabulary)」、「会話のやりくり(Discourse Management)」、「発音(Pronunciation)」、「相互コミュニケーション(Interactive Communication)」の4点で評価される。

2.2. 英検

英検は、日本英語検定協会によって実施・開発されており、日本人にとって一番馴染みのあるテストであろう。従来型の英検では、1次試験(リスニング、リーディング、ライティング)に合格すると、2次試験であるスピーキングテストの受験が可能である。新たに導入された英検CBTや英検1 day S-CBTでは、1次と2次試験を同時に受験することはできるが、特定の級に合格したか否かの判定は、従来の方法と同じである。旺文社(2019a, 2019b)によると、スピーキングテストの実施方法は、これまでの面接形式から、コンピューターを使った録音式になるが、問題形式と内容は変わらない。スピーキングテストは、準2級が6分、2級が7分程度で、まず面接委員より英語の文章とイラストが書かれたカード(準2級では2枚の絵カード、2級では3コマのイラストのついたカード)が渡される。20秒の黙読の後、文章の音読をするように指示される。その後、文章内容に関する質問が1題出題されるが、英文中の表現を利用して必要な情報を過不足なく伝えることがポイントのようだ。次に絵またはイラストの描写を行う。絵またはイラストの描写は現在(準2級)または過去(2級)進行形を使って描写するように指示されている。続いて、文章のトピックに関連した今後の社会状況についての意見と理由が問われる。例えば2018年度第2回準2級の2次試験で

は、“Food Displays”のトピックに対して、“Do you think it is good for people to eat fast food?”という質問が出題されている。同回の2級では、“Disappearing Languages”のトピックに対して、“Some people say that stores in Japan should give their workers foreign language training. What do you think about that?”が質問である。2級の方が文章も長く内容も高度であるが、自分の意見の表明とその理由を2文程度の英文で説明するという点は同じである。最後の問題は、身近な事柄やトピックに関連性のない事柄について、自分の意見や理由を2文程度で説明する問題である。英検のHPによると、スピーキングは、応答内容、発音、語彙、文法、語法、情報量、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度などで評価される。全体的に、面接委員との意味のやりとりはあまり重視されず、各質問を正確に聞き取り、適切に、分かりやすく答えられるかどうかが良い評価を得る鍵となるようだ。さらに、意欲や態度をスピーキングの評価対象としているのは、認定された英語民間試験の中では英検のみで、この評価項目は、英検の特徴と言えよう。

2.3. GTEC

GTECは、ベネッセコーポレーションとベルリッツによって共同開発された4技能を測る英語検定試験で、Core（中学校2～3年レベル）、Basic（中3～高2レベル）、Advanced（高1～高3レベル）、CBT（高2後半～高3レベル）の4種類がある。大学入試で活用されるのは、AdvancedとCBTであろう。CBT以外のGTECは、リーディング、リスニング、ライティングは問題冊子を使い解答をマークシートや記述欄に記入する。スピーキングはタブレット端末を使用する。CBTでは全てコンピューターを介して行う。テストは、「日常生活に加え、英語を用いた英語場面を想定したアカデミックな素材を含めた出題」（アルク 2019, p.5）である。全体のテストの所要時間は、Advancedでは120分（スピーキングは25分）、CBTでは175分（スピーキングは20分）である。

アルク（2019）によると、GTEC（Advanced）スピーキングは8問から構成されており、パート

は4つに分かれている。パートA（2問）は音読課題で、画面に示される50～60語ほどの2つの英文を、30秒の準備時間の後に音読する。英文を単に音読するのではなく、状況設定とどのように音読すべきか指示されており（例「あなたは、留学中に、ホストシスターに絵本を読んであげることになりました。聞いている人に伝わるように、下の英文を読み上げてください」）、その場面に応じて相手に伝わるような明瞭で正確な発音で音読することが求められる。パートB（4問）は、タブレット画面に示される図表などの情報を見ながら、質問に答える課題である。10秒の準備時間の後、質問を聞き、15秒で回答する。パートBも、Aと同じように、「あなたは留学先で、新しくできたスポーツジムについて友だちと話しています。友だちから2つ質問がされますので、画面上のチラシをもとに、質問に英語で答えなさい」のように状況設定が最初に表示される。次にチラシやポスターに書かれた情報を読み取る。質問は時間や場所の情報を問う基本的な内容である（例 “How much do I have to pay to go swimming?”, “What time does the gym close?” など）。質問を正確に聞き取り、正確に情報を伝える力が求められる。パートC（1問）は状況設定文（例「あなたは、先日ある少年が経験したことを、留学生の友だちに話すことになりました。相手に伝わるように英語で話してください」）と共に画面に示される4コマのイラストに基づいてストーリーを作り、分かりやすく説明する問題である。30秒の準備時間の後に1分間で解答する。パートD（1問）は身近で社会的なテーマについて書かれた短い英文を読み、そのテーマについて自分の意見とその理由を述べる課題である。準備時間1分の後1分間で解答する。パートDの例としては、状況設定の指示文（「あなたは英語の授業で、次のテーマについて発表することになりました。自分の考えを述べ、その理由を詳しく具体的に説明してください。聞いている人に伝わるように話してください」）と共に英文（“High school students shouldn't have part-time jobs while they are studying in school. What do you think about this? State your opinion and give at least one reason with an example or explanation.”）が提示さ

れる。音読、ストーリーの描写、身近な社会問題について自分の意見とその理由を述べるなどの課題は、英検と類似している。英検との違いは、それぞれのタスクにはっきりとした状況場面が設定されていることである。どのような場面や文脈で話すべきか指示されている方が、感情を入れて発話をするのが容易になるだろう。GTECのスピーキングの評価基準は内容（Goal Achievement）、言語スキル（語彙・文法、発音・流暢さ）に分けて採点される。

GTEC CBTスピーキングは3つのパートから構成されている。Part 1の「会話応答問題」では、画面における状況設定の提示の後、6つの質問に即座に答える問題である。高野（2019）に掲載されている問題例では、“Today is your first day at a new English school in the United States”という状況設定文が提示され、教員の写真画像提示と共に問われる基本的な6つの質問に2分程度で答える問題となっている。質問は、“What’s your name?”, “Where are you from?”, “What type of clothing is your favorite to wear when you are with friends?”, “Why are they your favorite?”などである。Part 2は3つの関連した問題を含む「情報伝達および照会問題」である。30秒の準備時間と解答時間1分がそれぞれの問題に設定されている。具体例としては、“You and your friend Ben want to watch a baseball game this weekend. You are looking for a game to watch near Smithton University. You found some information online”という場面設定文とともに、ある野球チームの情報が書かれたウェブサイトの画面が表示される。Question 1の問題は“Call Ben and leave him a message. Tell him : the name of the baseball team, when their games are, directions from Smithton University, and some more information about the baseball game”である。次の画面では、“Ben sent you information about a different baseball team. He wants to know which team you prefer to watch”という状況設定文とともに、別のチームの画面が追加で表示される。Question 2の問題は“You call him, but he doesn’t answer. Leave him a message. Tell him : which baseball team you like better, two reasons why you

prefer it”である。ここでは、単に情報を伝達するのではなく、2つの情報を比べてどちらが良いかを決め、その理由を伝えるという点でQuestion 1とは異なる問題になっている。Question 3では、“Ben liked the team that you chose. You want some more information. You call the team’s ticket office to ask some questions but no one answers.”という状況設定文と共に、Question 2と同じ2つのウェブサイト画面と次の指示文“Leave a message. Say why you’re calling. Ask two questions.”が表示される。Question 3では、画面に出ていない情報を分析して、質問を考えなければならない。Part 3は3つのQuestionから成る「意見展開問題」である。問題形式はAdvancedと同じであるが、Advancedでは問題数が1問であるのに対して、GTEC CBTでは3問ある。また3問のうち1問は“Your classmate has a question”という場面設定で質問を聞いて答える形式になっている。準備時間は90秒～3分、解答時間は2分～2分30秒と問題によって異なっている。AdvancedおよびCBTでは、全ての設問でメモを取り、それを見ながら解答することが許されているので、暗記などの負担が少なくなるように配慮されている。

2.4. IELTS

ブリティッシュ・カウンシル（2019）によると、IELTSはケンブリッジ大学ESOL等によって開発され、140カ国10,000以上の教育機関、企業、国際機関、政府で採用されている国際的に認知度の高い英語検定試験だが、日本ではあまり馴染みがないかもしれない。IELTSはアカデミック・モジュールとジェネラル・トレーニング・モジュールに分かれているが、日本の高校生が受験するのは前者の方だろう。全体の試験時間は164分程度で、そのうち約11分～14分がスピーキングテストである。スピーキングテストは、試験官との1対1のインタビュー形式で行われる。会話における自然な意味のやりとりが重視され、現実のコミュニケーションに近い文脈になるように配慮されているようだ。

テストは3つのパートに分かれている。Part 1では、試験官から、自己紹介や家族、仕事、勉強、趣味など一般的なトピックについての質問に答え

る。ブリティッシュ・カウンシル（2019）に掲載されているサンプルテスト（Test 1）の例によると、“Is money important? Why?”, “What is your favourite meal, for example, breakfast, lunch or dinner? Why?”などの質問である。Part 2は「スピーチ」で、トピックと言及すべきポイントが書かれたカードが渡され、1分間の準備時間の後、最大2分間のスピーチを行う。スピーチの後は、試験官からの同じトピックについて1～2つの質問に答える。具体例は、“Talk about a wedding you have been to. You should talk about : where it was, when it was, who you met there. And explain why this wedding was important to you.”などで、トピックとスピーチするポイントが書かれている。トピックの何について話すか決まっておらず、またスピーチの中で活用できる表現もカードの中に書かれているので、受験者の思考の負担は軽減されるだろう。Part 3では「ディスカッション」を行う。Part 2のトピックに関して、試験官からより掘り下げられた質問がされ、その質問に答えることを通して、より深く自分の考えを述べる。試験官の具体的な質問は“We’ve been talking about a wedding you have been to. We are now going to discuss some more general questions related to this topic. First, let’s consider weddings and marriages in general. When is a person truly ready for marriage?”であり、この質問の後、ディスカッション形式で受験者の応答に沿って試験官からのさらなる質問が続く。IELTSのHPに掲載されている“Speaking : Band Descriptors”によると、スピーキングテストは、流暢さと一貫性 (Fluency and coherence)、語彙力 (Lexical resource)、文法力 (Grammatical range and accuracy)、発音 (Pronunciation) に基づき0～9のバンドで評価される。流暢さと一貫性では、ポーズの長さ、繰り返しや自己修正の回数が評価の対象になっており、ポーズが短く、自己修正が少ないと高評価を得ることができる。

2.5. TEAP/ TEAP (CBT)

TEAPはTest of English for Academic Purposesの略語で、日本の高校3年生を対象とした大学入試を想定して、上智大学と日本英語検定協会が共

同で開発したテストである（旺文社 2018b）。ペーパーベースのTEAPとコンピューターを使用したTEAP (CBT) の2種類がある。日本で開発・実施されている試験だが、英検に比べると聞き慣れないテストかもしれない。このテストでは、大学などアカデミックな場面（英語で資料や文献を読む、英語での講義を受ける、英語で発表するなど）で必要とされる英語運用力が測定される。TEAPは2技能パターンと4技能パターンのどちらかの選択が可能であるが、TEAP (CBT) は4技能の受験パターンのみである。TEAPとTEAP (CBT)の違いは、後者では、IT技術の活用により4技能を組み合わせた総合型の問題が複数出題されていることである。TEAP全体の試験時間は200分で、スピーキングテストは1対1の面接方式で実施されており、時間は10分程度である。また、TEAP (CBT)のHPに掲載されている「問題構成」によると、TEAP (CBT)の全体の試験時間もTEAPと同じく200分で、スピーキングはコンピューターを使った録音方式で約30分の時間配分になっている。

旺文社（2018a）によると、TEAPのスピーキングテストは、4つのパートに分かれており、Part 1ではExaminerによって生活に関する複数の質問（例“What do you like to do when you are at home?”）が問われ、それらに答えることによって、受験者が自分自身について説明できるかどうかを測定する。Part 2は、ロールプレイ形式に受験者がExaminerにインタビューするタスクである。質問する内容が書かれたトピックカードが渡され、30秒の準備の後、質問しながらインタビューを行う。例えば「高校の先生にインタビューする」という設定において、“The grade he/she teaches”について尋ねるには、“Which grade do you teach?”などと質問することになる。Part 2では、Examinerとの対話において効果的にやりとりができるかどうかの評価のポイントとなる。Part 3は与えられたテーマに沿ったスピーチである。トピックが書かれたカード（例“It is good to teach English in Japanese elementary schools. Do you agree with this statement? Why or why not?”）を読み、30秒の準備の後に、スピーチを行う。どれだけ一貫性のあるスピーチができるかが評価される。Part 4

では、Examinerからの複数の話題に関する質問に答えるタスクである。質問の例は、“Should schools limit the types of clothing students can wear?” や “Are e-books better than printed books?” 等である。TEAPスピーキングテストの評価基準は、発音 (Pronunciation)、文法と正確さ (Grammatical range & Accuracy)、語彙と正確さ (Lexical range & Accuracy)、流暢さ (Fluency)、受け答えが効果的か (Interactional effectiveness) の5つである。

TEAP (CBT) HPに掲載されている「問題構成」に関する情報によると、TEAP (CBT) のスピーキングテストもTEAPと同様に4つのパートに分かれているが、CBTならではの4技能統合型のタスクが2つ含まれている。Part 1 はTEAPと同じ形式で、自分自身に関する質問を聞き取って答える「質疑応答課題」である。TEAP (CBT) のHPで公開されている無料体験動画では、“Do you often use school library?” の質問に対して、Yes/Noと答えた後により詳しく説明するようにとアドバイスされていた。Part 2 は「伝言・描写課題」で、大学生活で遭遇する場面において口頭説明、メッセージを残す、問い合わせなどを行う。コンピューターの画面上に設定場面、指示と伝えるべき内容、絵が提示される。場面と話す内容が事前に決められているという点では、TEAPのロールプレイ形式のインタビューと類似したタスクと言える。例としては、“You lost your white bag somewhere on campus, so you go to the Student Center” というSituation (場面設定) の後に、“Instruction : Talk to the Student Center staff. Say what you lost. Describe your bag (at least three things).”の指示文がカバンの絵と共に提示され、45秒の準備時間の後、1分間で描写する。Part 3 は「矛盾点指摘課題」である。画面に示されるあるテーマに関する文章と、それとは異なる内容を表すグラフや図表を見て、文章に書かれた内容との矛盾点を比較・分析して、その違いを説明するタスクである。例では、“You are doing research for a Health Science class and read an opinion article. Then, you find some information that disagrees with it.” というSituationが書かれた画面の後、次の指示文 (“Instruction : Compare the main points of the article and the

graph. Then, based on the information in the graph, explain why the article may be wrong. You will not see this page when you answer.”)、問題文章、表が1つの画面に一緒に提示される。受験者は2分間の準備時間の後、1分30秒で矛盾点を説明する。Part 3では、2分以内に英文とグラフの理解、矛盾点の分析、さらに英語でどのように論理的に説明をするかを考える必要があるため、認知的に高度なタスクと言える。Part 4は、「要約・意見課題」で、あるテーマに関する参考資料を「読み」、講義の音声を「聞き」、その内容の要約を「発話する」3技能の統合型問題になっている。Part 4は2つのタスクに分かれており、Task 1では講義の要約、Task 2では、講義の内容に関する自分の意見を述べるタスクである。Task 1の例は、“You are taking a Public Safety Management class. You listen to a lecture about reducing the number of flight attendants on airplanes” というSituationを読み、次にListening画面に移動する。Listening画面では指示文 (“Instruction : Summarize the main points of the lecture. Be sure to include : the topic of the lecture and different opinions about the topic. You will not see this page when you answer”) と共に2つのグラフ (円グラフと棒グラフ) が提示される。グラフの理解と講義のリスニングの後、30秒の準備時間を経て、1分間で要約を発話する。Task 2では、Task 1と同じテーマに関する質問に対して、30秒の準備時間の後、1分間で自分の意見を述べるといったタスクになっている。

2.6. TOEFL iBT

ETS (Educational Testing Service) によって開発・実施されているTOEFL iBTは、インターネットを使った英語能力判定試験で、130カ国8,500以上の大学や機関によって採用されている (ETS, 2012)。IELTSと同様に国際的認知度が高い英語テストである。TOEFLでの高得点は、英語圏の大学などアカデミックな場面や大学生活において効果的に英語運用能力を発揮できることを示す指標となる。TOEFL iBTテスト全体の所要時間は約4時間で、4つのセクションに分かれている。そのうちスピーキング・セクションは約20分である。ス

スピーキングテストの概要は、アカデミックな場面において身近なトピックについて意見を述べる、リーディングやlisteningの課題を基に話す、である。全6問、単独問題 (independent task) 2問 (Questions 1-2)、統合問題 (integrated task) 4問 (Questions 3-6) である。前者は、自分の考え、意見、体験に基づいたスピーキングであるのに対し、後者では解答の際に他のスキル (リーディング、リスニング) を統合的に使用する必要がある。例えば、会話や講義の一部を聞いてから設問に答える「聞く-話す」や、英文の一節を読み、次に短いディスカッションや講義の一部を聞いてから (またはその逆) 設問に答える「聞く-読む-話す」の形式である。スピーキング・セクションではメモを取ることが許されているため、暗記など情報保持の負担は少ない。全ての設問において、15秒～30秒の準備時間が与えられており、解答時間は45秒～1分間である。

ETS (2012) に掲載されている具体的なスピーキング・セクションのテスト内容は次のような問題である。Question 1の質問は“Choose a place you go to often that is important to you and explain why it is important. Please include specific details in your explanation.”である。Question 2は“Some college students choose to take courses in a variety of subject areas in order to get a broad education. Others choose to focus on a single subject area in order to have a deeper understanding of that area. Which approach to course selection do you think is better for students and why?”であり、1問目よりも長めで、より難しい内容になっている。Question 3では、まず“Bus Service Elimination Planned”について書かれた短いパッセージを45秒間で読む。次に、男女の会話を聞き、この題目についての男性の意見を聞き取り、その意見の要約と理由を1分間で説明するタスクである。Question 4は、Question 3と同じ形式のテストだが、リスニングする内容は、会話ではなく、講義の一部である。また、解答には、パッセージとリスニング両方の正確な内容理解と、パッセージとリスニング内容の関連付けが必要なため、Question 3よりも複雑タスクと言える。Question 5では、ある問題とそ

の解決方法について話をしている会話を聞いて、まず会話内容の要約をし、さらにどの解決方法が良いか自分の意見と理由を述べるのが課題である。Question 6では長めの講義の一部 (例：経済学における「お金の2つの定義についての講義」) を聞いて、「お金」の定義を、講義に出てきた例を用いながら説明するものである。理解した内容を要約する課題であるのはQuestion 3やQuestion 5と同じであるが、リスニングの内容はアカデミックでより複雑である。

TOEFL iBTのスピーキング基準は、「概要」 (General description)、「話し方」 (Delivery)、「言語使用」 (Language use)、「話の展開」 (Topic development) であり、単独型タスクと統合型タスクそれぞれ1～4で評価される。TOEFL iBTは、2019年8月1日以降、ライティング・セクション以外の問題数が減ることで、テストの所要時間が4時間から3時間に短くなる。スピーキングは全4問、単独問題 (independent task) 1問、統合問題 (integrated task) 3問に変更になるが、テスト形式は同じとのことだ。

3. スピーキングの指導方法とまとめ

前節では、文科省によって認定された英語民間試験のスピーキングテストの概要をまとめた。それぞれの試験におけるスピーキング課題は多岐にわたるため、個別の試験に合わせた指導は不可欠である。しかし、出題されている課題の種類に違いはあっても、全てのスピーキングテストにおいて共通に測定されている力は、「英語でのコミュニケーション能力」である。つまり、英語そのものの言語知識 (文法や語彙知識) を測っているのではなく、コミュニケーションをするために「英語を使う能力」を測定しているのである。特に、スピーキングテストで高評価を得るには、リスニングとリーディングを組み合わせた統合的なコミュニケーション能力を育成することが必須である。

平成30年に改定された高等学校学習指導要領外国語の目標として記述されている「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動およびこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適

切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする」とあるように、単語や本文の音読練習、本文の読解、文法解説や文法の演習問題のみで授業を終えるのではなく、聞いたことや読んだことについて、英語でのディスカッションなどを通して深く考え、自分なりの意見を構築し、その意見について、ペアやグループでやりとりする、発表する、書くなど、4技能をフルに活用するような授業展開が必要になるだろう。50分という限られた授業時間の中で、4技能を統合させた活動を行うのは容易ではないが、そのような形態に授業を変えていくことでしか、英語民間試験に太刀打ちできる英語コミュニケーション能力を育てることはできないだろう。2020年度からの共通試験における英語民間試験の導入をきっかけに、英語をコミュニケーションの道具として捉えるコミュニケーション・アプローチに基づく英語授業がさらに浸透していくだろう。

参考文献

- IELTS “Speaking : Band Descriptors (Public version)”
<<https://www.ielts.org/-/media/pdfs/speaking-band-descriptors.ashx?la=en>> (2019年8月14日アクセス)
- Educational Testing Service (ETS) (著) 林功 (日本語監訳)
(2012) 『ETS公認ガイドTOEFL iBT第4版 CD-ROM版』 マグロウヒル・エデュケーション
- 旺文社 (編) (2019a) 『2019年度版英検準2級過去6回全問題集』 旺文社
- 旺文社 (編) (2019b) 『2019年度版英検2級過去6回全問題集』 旺文社
- 旺文社 (編) (2018a) 『TEAP 技能別問題集：大学入試合格のためのライティング/スピーキング』 旺文社
- 旺文社 (編) (2018b) 『TEAP 実践問題集：大学入試合格のための』 旺文社
- 基盤学力総合研究所 (編) (2016) 『ケンブリッジ英検PET 実践問題集：4技能をバランスよく伸ばす』 Z会
- ケンブリッジ英語検定 『ケンブリッジ英語検定とCEFR』
<<https://www.cambridgeenglish.org/jp/Images/462505-cambridge-english-qualifications-and-cefr.pdf>> (2019年8月15日アクセス)
- 高野正恵 (2019) 『GTEC CBT公式問題集 第2版 スピーキング編』 ベネッセコーポレーションTEAP CBT 『問題構成』
TEAP CBT 『スピーキングテスト・デモムービー』
<<https://www.eiken.or.jp/teap/cbt/demo/>> (2019年8月14日アクセス)
- 日本英語検定協会 『2級の試験内容』
<https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/grade_2/detail.html> (2019年8月14日アクセス)
- 南風原朝和 (編) (2018) 『検証 迷走する英語入試：スピーキング導入と民間委託』 岩波書店
- ブリティッシュ・カウンシル (2019) 『IELTSブリティッシュ・カウンシル公認本番形式問題3回分』 旺文社
- 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 <http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/07/11/1384661_6_1_2.pdf> (2019年8月29日アクセス)
- 文部科学省 『大学入学共通テストの枠組みで実施する民間の英語資格・検定試験について』 <http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/08/28/1408564_1.pdf> (2019年8月29日アクセス)
- アルク文教教材編集部編集 (編) 山下仁司 (執筆協力)
(2019) 『GTEC過去問題集 Advanced：4技能を伸ばし大学受験突破!』 アルク
- (むらおか・ゆか 聖学院大学人文学部欧米文化学科准教授)